

令和6年度農作物病虫害発生予察技術資料第11号

令和7年(2025年)3月14日
山口県病虫害防除所

タマネギべと病の防除の徹底について

3月11日～12日に実施した巡回調査および県内一斉調査において、タマネギべと病の越年り病株（一次感染株）の発生が確認されました。今後、気温の上昇に伴い発生が増加する恐れがありますので、以下のとおり防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 巡回調査（28ほ場）の結果、発生ほ場率3.6%（平年6.4%）、発病株率0.1%（平年0.5%）、1a当たり調査の発生ほ場率7.1%（平年12.1%）、1a当たり越年り病株数0.2（平年1.8）で平年に比べやや少なかった。
- (2) 県内一斉調査（135ほ場）の結果、発生ほ場率8.1%（平年15.2%）、1a当たり越年り病株数1.2（平年3.0）で平年に比べやや少なかった。

2 防除方法

- (1) 越年り病株（図2、図3）は4月頃まで発生するため、複数回ほ場を見回り、見つけ次第直ちに抜き取る。また、抜き取り後は、袋等に入れてほ場外に持ち出し、ビニール袋等に密閉するか土中に埋める等適正に処分する。
- (2) 現在、越年り病株の発生が認められないほ場は、マンゼブ剤（殺菌剤コードM03）、フルアジナム剤（殺菌剤コード29）等の保護殺菌剤で、7～10日間隔で定期的な予防防除を実施する（別表）。
- (3) 越年り病株、二次感染株（図4、図5）が認められた場合は、直ちに治療効果のある薬剤（殺菌剤コード4、11、40等）を散布する（別表）。
- (4) 腐敗病等の対策も兼ねて、畝間に滞水しないよう、排水対策を徹底する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 本病に登録のある薬剤は混合剤が多いため、同一成分の使用回数を超えないよう、成分、殺菌剤コード及び散布記録等を必ず確認してから使用する。
- (2) 水和剤を散布する場合は、薬剤の付着をよくするため、必ず展着剤を加用する。
- (3) 薬剤防除を行う場合は、周辺の作物に飛散させない。

【参考】

越年り病株（えつねん りびょうかぶ）とは

前年の12月頃までに苗床やほ場で本病に感染（一次感染）した株で、主に2～3月頃から発病が見られる。葉が下側に湾曲、退色して薄黄色となるのが特徴。退色した葉表面部には、白色または暗紫色の分生子（胞子）が形成される。この分生子が次の伝染源となり、タマネギの葉に感染（二次感染）と発病を繰り返し、被害が拡大する。

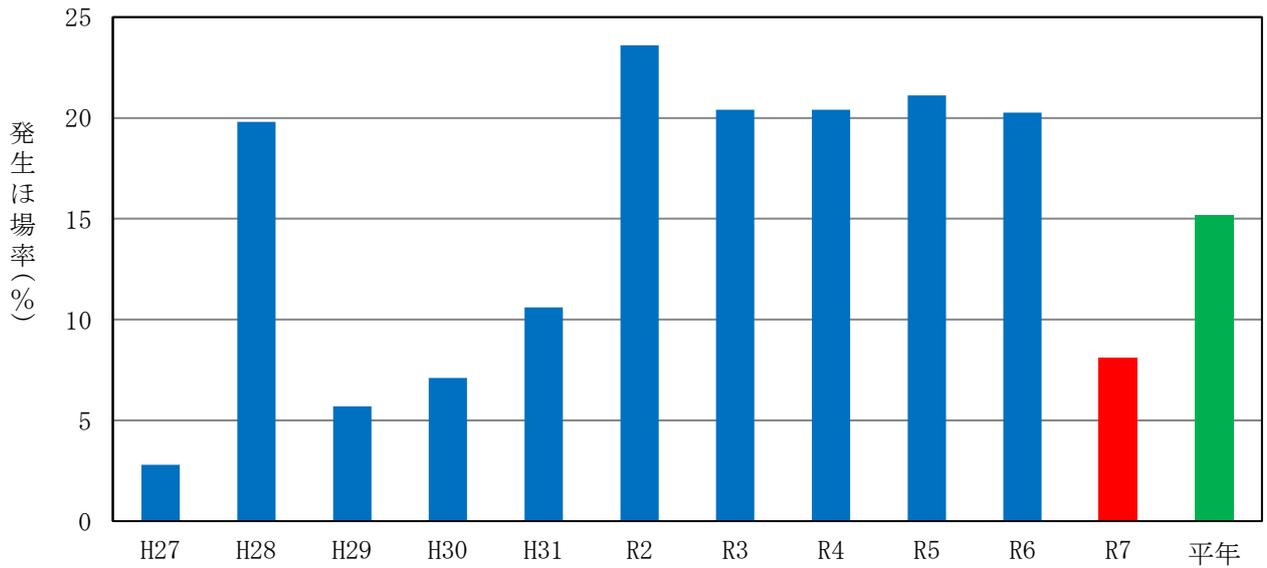


図1 タマネギべと病の発生ほ場率（3月中旬県内一斉調査）



図2 タマネギべと病の越年り病株

※ 図中の●○○○で囲まれた株が、タマネギべと病の越年り病株。
越年り病株は、ほ場を見回る際、視線を足元よりも少し遠目にして歩き、
周辺の健全株と見比べると生育が劣っているため見つけやすい。



図3 越年り病株の葉上に形成された分生子（胞子）

※ べと病菌の分生子は株全体に見られるが、黄色矢印は特に多く見られる部分



図4 タマネギべと病の二次感染株

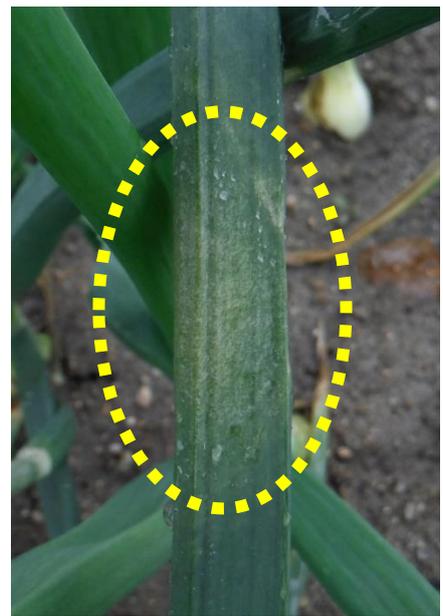


図5 二次感染株の病斑（拡大）

別表 タマネギベと病の主な薬剤一覧（令和7年3月13日現在）

殺菌剤コード	一般名(成分)	商品名	希釈倍数・散布流量	使用時期(収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む使用回数
4 M05	メタラキシルM・TPN水和剤	フォリオゴールド	800～1000倍, 100～400リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	メタラキシル及びメタラキシルM4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)、TPN6回以内
M03 4	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	リドミルゴールドMZ	500～1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	マンゼブ5回以内、メタラキシルおよびメタラキシルM4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)
7 M05	ベンチオビラド・TPN水和剤	ベジセイバー	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	ベンチオビラド4回以内、TPN6回以内
11	アゾキシストロピン水和剤	アミスター20フロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	アゾキシストロピン4回以内
	ピコキシストロピン水和剤	メジャーフロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	ピコキシストロピン3回以内
11 M05	アゾキシストロピン・TPN水和剤	アミスターオブティフロアブル	1000倍, 100～400リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	アゾキシストロピン4回以内、TPN6回以内
11 7	ピラクロストロピン・ボスカリド水和剤	シグナムWDG	1500倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ピラクロストロピン4回以内(但し、定植前は1回以内、定植後は3回以内)、ボスカリド4回以内(但し、定植前は1回以内、定植後は3回以内)
27 11	シモキサニル・ファモキサドン水和剤	ホライズンドライフロアブル	2500倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	シモキサニル3回以内、ファモキサドン3回以内
21	シアゾファミド水和剤	ランマンフロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	シアゾファミド4回以内
21 49	アミスルブロム・オキサチアピプロリン水和剤	ゾーバックエンテクタSE	3000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	アミスルブロム3回以内、オキサチアピプロリン2回以内
27 40	シモキサニル・ベンチアパリカルブイソプロピル水和剤	ベトファイター顆粒水和剤	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	シモキサニル3回以内、ベンチアパリカルブイソプロピル3回以内
29	フルアジナム水和剤	フロンサイド水和剤	1000～2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	7回以内(但し、全面土壌混和は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、散布は5回以内)
	フルアジナム水和剤	フロンサイドSC	1000～2000倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	
40 M05	ベンチアパリカルブイソプロピル・TPN水和剤	プロボーズ顆粒水和剤	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ベンチアパリカルブイソプロピル3回以内、TPN6回以内
40	マンジプロバミド水和剤	レーバスフロアブル	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	マンジプロバミド2回以内
43 28	フルオビコリド・プロパモカルブ塩酸塩	リライアブルフロアブル	500倍, 100～300リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	フルオビコリド3回以内、プロパモカルブ塩酸塩2回以内
43 40	フルオビコリド・ベンチアパリカルブイソプロピル水和剤	ジャストフィットフロアブル	3000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	フルオビコリドは3回以内、ベンチアパリカルブイソプロピル3回以内
45 40	アメトクトラジン・ジメトモルフ水和剤	ザンブロDMフロアブル	1500～2000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	アメトクトラジン3回以内、ジメトモルフ3回以内
49 40	オキサチアピプロリン・マンジプロバミド水和剤	オロンディスウルトラSC	2000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	オキサチアピプロリン2回以内、マンジプロバミド2回以内
U17	ピカルブトラゾクス水和剤	ビシロックフロアブル	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	ピカルブトラゾクス3回以内
M01	銅水和剤	Zボルドー	500倍, 100～300リットル/10a	—	—	散布	—
	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	ヨネボン水和剤	500倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	ノニルフェノールスルホン酸銅5回以内
M03	マンゼブ水和剤	ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤	400～600倍, 100～300リットル/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	マンゼブ5回以内
M05	TPN水和剤	ダコニール1000	1000倍, 100～300リットル/10a	収穫7日前まで	6回以内	散布	TPN6回以内